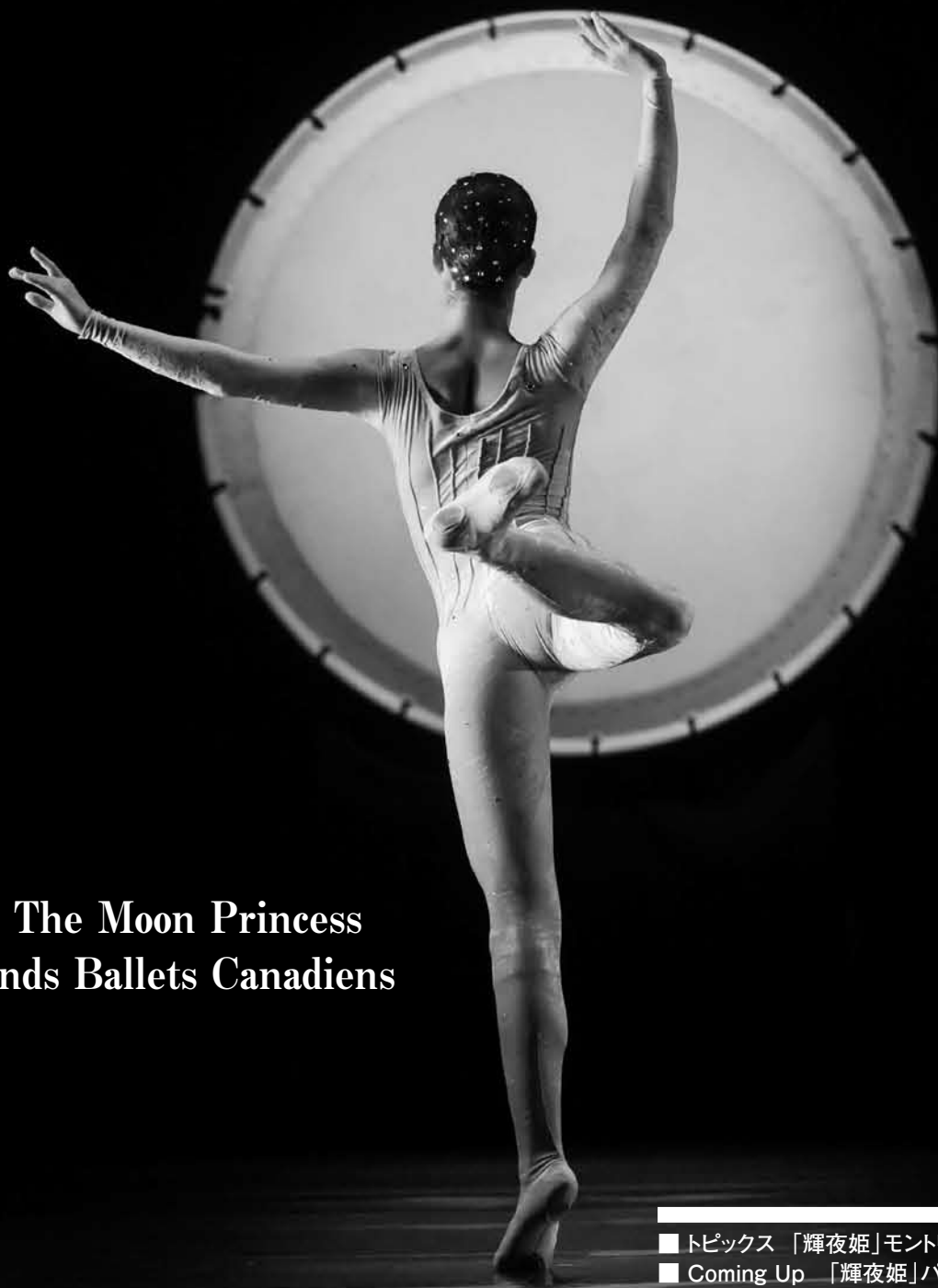


鼓童



Kaguyahime: The Moon Princess
with Les Grands Ballets Canadiens
in Montreal

- トピックス 「輝夜姫」モントリオール公演
- Coming Up 「輝夜姫」パリ・オペラ座
- 心の声の導くままに 藤本容子
- 2012年 研修所、実り秋
- フリートーク 草 洋介

Eva Kolarovaさんが踊る輝夜姫(Les Grands Ballets Canadiens)
(写真: Joris Jan Bos)

旅を終えて、佐渡で過ごすつかの間の晩秋。12月に向けて、気持ちを合わせていきます。

鼓童通信

2012年9月～10月



九ノ二二 周防大島での刺し子ワークショップの様子。意外なことに、参加者の半分以上が男性でした。
(写真・山中津久美)

ONE EARTH TOUR ワン・アース・ツアー

十ノ六 山口・菊川ふれあい会館 アブニール

ツアーもこれまでに十四の都府県を巡り、今回初めて私は山口県にやつて来ました。菊川公演実行委員会の皆さんはとても温かく迎えて下さり、下関の夜景を見たり、代表の笹山さんの紹介で名物「瓦そば」も堪能できました。

菊川での公演は今回で五回目。公演が始まると劇場は静まり返り、お客さんは食い入るように舞台を見つめている様子でした。そんな中での演奏はとても緊張感があり、いつにも増して集中力が上がります。舞台二つが修行だと、改めて感じました。ツアーも残り三分の一というところ、良い舞台を目指しこれからも頑張ります。
(報告・花岡哲海)

十ノ七 福岡・北九州芸術劇場 中劇場

約五年ぶりの北九州、小倉。「無法松の一生」でも有名な小倉祇園太鼓があります。以前に訪問した時にお世話になった祇園太鼓の方も見に来て下さいました。お客さんの反応がとても良く、満員のお客さんとても喜んでいただきました。

ミーティングで「カデンの呼吸をもう一度合わせよう」と話し、三連続公演の中日で疲れもありましたが、時間を割いて稽古をしました。日々、進化していく「カデン」。ソロも含めて、みんな試行錯誤の連続です。

十ノ十三 鹿児島・宝山ホール

鹿児島太鼓連合さんのご協力もあり、多くの太鼓チームの関係者が見に来て下さいました。今年の春には宮崎正美、そして公演後に石塚充がワークショップをして、地元の方々との交流も年々増えつつあり、公演後は、ワークショップの参加者の方々から、大きなコールもおこるほど。私たちが九州の熱い太鼓魂に負けじと、気合いが入った公演でした。

いったん、中締め「伝説」ツアー。鹿児島から佐渡へ。このツアーは東北から九州へとまさに日本縦断のツアーでした。
(報告・阿部研三)

KAGUYAHIME 輝夜姫

十ノ二ノ十日 リハーサル

参加メンバー八人中六人が初輝夜姫。内三人は指揮者に合わせての演奏も初めて。ここまでCDを聴きまくりDVDを観まくり、メトロノームを使い、パソコンの音楽ソフトに打ち込んだ西洋打楽器のパートに合わせ稽古したりと、猛特訓で臨んだリハーサル。ミカエル・デ・ローさんの分かり易い指揮と、気さくなパークッションストや玲楽舎の皆さんに支えられ、とてもスムーズに稽古は進みました。一方、レグラン・バレエカナディアンダンスはプリマもソリストもオーディションで若手が抜擢されたそうで、モチベーションの高さを感じます。こうして細かな振り付けの直し、演奏とのタイミング調整で八回の稽古が続きます。

十ノ十二ノ二七 カナダ・ケベック州モントリオール

潤沢な稽古時間を経て無事に幕が開きました。が、これで終わりではありません。ダンスはダブルキャストが組まれていて、殆どの人が日替わりで二役を演じています。我々は指揮者を見て譜面を確認しながらの慣れない演奏で、殆ど周りに気を配る余裕がありませんが、ダンス達の熱気やパークッションストの息遣いを感じ、スリリングでエキサイティングな時を過ごしています。連日の満席に感謝すると共に、輝夜姫が石井真木さんと里帰りして日本で上演される事を夢見ています。
(報告・齊藤栄)

※四ページのトピックスをご覧ください。

SADO PERFORMANCES 鼓童佐渡特別公演・秋

十ノ十三ノ十五、十九、二〇 佐渡・あゆみ会館

春、夏に続き、今年最後の秋公演も無事終えることができました。鼓童として初めての取組みだった本公演に、三シーズンで延べ二五〇〇名という多くの皆様にお越しただけなこと、本当に嬉しく、感謝申し上げます。ベテランメンバーが今まで培った技術と二人の人の人柄に加え、研修生二年生の若いひたむきなエネルギーが一つになった素晴らしいチーム力で特別公演をお届けすることができたと感じています。

また、来年度も春夏公演を宿根木公会堂で行うことが決定しています。ぜひ皆様のお越しをお待ちしております。

(報告・上之山博文)



十／二〇 佐渡特別公演、千秋楽での一枚。佐渡市小木あゆす会館にて。
(写真：根岸俊昭)

SOLO ACTIVITY

ソロ・小編成活動

十／六 椿尾能舞台修復記念イベント
茅葺きの空き家を借りて十年間椿尾に住んでいた御縁で出演させていただきました。佐渡には三〇を越す能舞台があり、そのうち十程の能舞台で新能などが催され、ここ椿尾も集落の方々が「椿尾能楽・石工の里の会」を結成され集落の文化財を大切に活用させて行こうと取り組まれています。一部は真野能楽会による能『狸々』が演じられ、二部は私と容子がお祝いと感謝を込めて唄と太鼓の演奏をさせていただきます。天気にも恵まれ椿尾の皆さんに喜んでもらえたことが何よりも嬉しかったです。
(報告：藤本吉利)

KODO CULTURAL FOUNDATION

鼓童文化財団

九／三二 刺し子ワークショップ(山口・周防大島)

周防大島郷土大学の講師として講演と刺し子教室をさせていただきました。今までは講師の方の話聞くことだけでしたが、手仕事をしている人々を呼んで実技体験しようという試みで、私にお声をかけていただきました。手ぬぐいで「鍋つかみ」作りに挑戦いただき、短い時間の中で完成し達成感を持ってもらうことに重点をおきました。半分以上が男性の参加で、みなさんとても楽しそうに取り組まれていたのが印象的でした。

今回、鼓童の産みの親である宮本常一先生の出身地・周防大島で手仕事の講習がで

きたことは、今後の活動への励みになりました。
(報告：大井キヨ子)

九／三二、三 研修所説明会(新潟・東京)

「鼓童文化財団研修所説明会」を初めて開催しました。新潟では、鼓童文化財団の評議員でもある五十嵐實氏が校長を務められる「日本自然環境専門学校」の教室をお借りし、東京は、新潟の情報発信するアンテナショップ「表参道・新潟館ネスパス」内で行いました。菅野敦司と研修所所長の石原泰彦、東京会場は理事長の島崎信も加わり、鼓童と研修所について、また応募方法などを詳しく説明しました。事前に佐渡へ見学に来られない方にとつて、また財団のスタッフにとつても、お互いに貴重な機会となりました。
(報告：山口康子)

十／十一 「いがた緑の百年物語 第四〇回佐渡地方植樹祭」に参加

鼓童文化財団は、林業功労者実行委員長(佐渡市長)表彰を授与されました。二〇〇四年から始めた環境学習、アースファニチャーにおける活動が認められののだと思います。式典は約一時間で終了し、その後移動して小木ふるさとの森公園にて植樹をいたしました。最後は山口幹文が笛の演奏を披露。公園の吊り橋のところが舞台となり、高い位置からの演奏だったので、笛の音色が森林浴のシャワーとなって降りてくるような感覚を覚えました。
(報告：山中津久美)

※今月の「サミーちゃん」はお休みします。

鼓童村の四季

秋祭り実りを祝い鬼を打つ 哲海

爽やかな秋日和の十月十九日の午前中、私の地元平泉会館で研修生の俳句講座を開きました。参加は一年生の八名ですが、事前投句は他に二年生八名、スタッフ等五名の合計二二名で、五八句の名句が揃いました。

ちなみに「平泉」という由緒ありそうな地名は、平清水と泉の二地区をまとめた名称で、昔主に学校区(学校名)として、大崎と滝平の児童が通う大滝小学校というふうに使われてきました。平泉会館も元平泉小学校です。

さて今回の投句内容についてですが、平均すると一年生二句、二年生三句、スタッフ四句です。「峠越え広がる世界は黄金色」というような無季(季語が無い)の句もあれば、「秋の夜星の絨毯天の川」のような季重なり(季語が二つ以上ある)の句もあります。季語は一句に一つです。「新米をほおぼる喜び大和人」は字あまり(五七五より字数が多い)となっています。感想を述べたり添削をして、次の四句を私は特選に選びました。

稀刈り目指す称号「コンバイン」 俊一郎
渡り鳥はるかな空よふるさとよ 悠子
でくのぼう雨ニモマケズ案山子立つ 菜瑠美
受話器おき秋の夜長の母想ふ 美奈子
どれも個性が良く出ていると思います。

句会の最高句は掲出の哲海君の作品です。「鬼を打つ」は鬼太鼓を打つことを略したものです。当日の午後、研修生は相川祭で鬼太鼓を学ぶということで、昂ぶる気持ちが選句にも表れたのかもしれない。太鼓の音が響いてくるような、元気なめでたい作品です。

(赤塚五行 鼓童文化財団研修所講師)

輝夜姫 Kaguyahime:

The Moon Princess

モントリオール公演



ダンサー・音楽家・舞台スタッフがひとつのチームとして結集し、じっくりと時間をかけて東西の文化を融合させ、そのパワーを存分に伝えた舞台。共演者が感じた今回のコラボレーションは…



ダンサー
**Kenji Matsuyama
Ribeiro 氏**
Les Grands Ballets Canadiens

僕は日本人とのハーフで、母が寝る前に話して聞かせてくれた昔話の舞台に立っているのは本当に嬉しいです。「輝夜姫」は西洋人の観点からダンスで表現するところが面白いですね。

イリ・キリアン氏は素晴らしい振付家です。鋭い音楽センス、洗練された美的センスを備え、素晴らしく流動的な振付です。他のバレエ作品との違いは、相反する西洋と東洋の文化を融合させたところですが、明らかに異なる点は、日本の伝統音楽を取り入れたところです。石井眞木氏の作品には特別な雰囲気があります。そこがすごいですね。別世界へ引き込まれたような気がします。

生演奏はダンサーには刺激になります。ミュージシャンのパワーが伝わってくる時は、僕達もベストを尽くすしかありません。打楽器が始まると、僕の体の隅々まで、血管の末端までリズムが走り抜け、いつダンスが始まって大丈夫です。

音楽、演出、ダンサーとミュージシャンが発するエネルギーをお客様に楽しんでもらえたいと思います。



ダンサー
Hamilton Nieh 氏
Les Grands Ballets Canadiens

イリ・キリアン氏はとても高く評価されていて、現代の一流の振付師と考えられていますから、どのダンサーも彼の振付で踊りたいと思っています。僕としてはそれが実現しただけですごくいいことです。稽古が始まってすぐに確かな手応えを感じました。振付が素晴らしいから、とても満たされた気持ちになります。

僕たちは西洋のクラシック音楽で踊ることに慣れていません。この舞台の音楽は全く違います。最初は慣れないリズムで拾いにくかったですね。メロディの解釈の仕方も違います。だから、音楽を知り、理解することから始めました。最初は難しかったけど、徐々に聞き取れるようになりました。

ダンスのベースはリズムだから、打楽器に合わせて踊るのは自然なことです。ダンサーの基礎は確かにリズムだし、リズムに合わせて、体でリズムを感じることはダンサーとして大事なトレーニングです。だからこういう力強いリズムに合わせて踊るととても満足感があります。



西洋打楽器奏者
Bob Slapcoff 氏

「輝夜姫」は打楽器に焦点を絞り、伝統的な太鼓音楽と新しい音楽を混ぜ合わせて色々な音を使いこなした作品で、日本の太鼓のスタイルを尊重していると思いました。

鼓童の人たちは感じが良く一緒に仕事しやすいです。そして優れたミュージシャンです。良いミュージシャンが、エゴを仕事に持ち込まずに良い心構えが集まると、良い音楽ができます。雅楽の人たちは素晴らしい。「輝夜姫」は古い物語だという印象や古色を与え、下地となり、このバレエで大切な役割を担っています。演奏する時と同じように振る舞い方が静かで、まるで演技しているかのようです。

第二幕で日本の伝統音楽（下山囃子）を演奏する時は、僕たちも加わり大音響になります！戦いの場面は、個人的には今までで一番パワフルな演奏です。この場面が延々と続き、激しさを増し、聴衆を夢中にさせます。圧倒的な効果がありますね。ダンサーは、足もとから響いてくる音や舞台上で演奏される音を聞いています。僕たちが出すエネルギーとバイブレーションに触発されたと思います。

太鼓打ちたちは最高に心揺さぶる演奏を繰り広げた。
 彼らの呼吸の合い方は、まるで一つの打楽器になってしまったかのようであった。
 そして、その響きは雪の花びらが優しく降る様や、落雷の衝撃を想起させた

— Le Monde (2010年 フランス)



写真：Christophe Pelé / Opéra national de Paris (2010年)

COMING UP

ただいま計画・準備中の催しから

「輝夜姫」、最高峰。パリ・オペラ座ガルニエ宮へ

世界最高峰の歌劇場として名高いパリ・オペラ座ガルニエ宮への太鼓グループの出演は、パリ・オペラ座の歴史上、鼓童が初めてとなりませう。

二〇一三年二月、パリ国立オペラ (Opéra national de Paris) が開催するバレエ公演「輝夜姫 Kaguyahime」に鼓童の演奏者八名が出演します。二〇一〇年六月〜七月には、パリ・オペラ座バステイユでの「輝夜姫」連続公演にも出演し、今回は三年振りのオペラ座公演です。

から現代作品まで幅広いレパートリーを誇り、常に世界のバレエ界をリードし続けているのがパリ・オペラ座バレエ団です。

一九八九年に新館のオペラ・バステイユが完成し、主にバレエ公演はガルニエ宮、オペラ公演はバステイユで行われることが多いようです。現在、パリ・オペラ座は三五〇人を超えるダンサーを擁し、厳しい競争を勝ち抜いてきた精鋭ダンサーが揃っています。

パリ・オペラ座は、フランスを代表するオペラ、バレエ団体を擁する国立歌劇場。十七世紀末にルイ十四世の伸立ちで王立音楽アカデミーおよび舞踊学校として発足し、十三番目の劇場として二八七五年に完成したガルニエ宮が現在のパリ・オペラ座として知られています。プロのバレエ・ダンサーという職業は、パリ・オペラ座で誕生しました。以来、古典バレエ

また、新作にも積極的に取り組む、外部振付家への委嘱作品も積極的に取り組んでいます。今回の「輝夜姫 Kaguyahime」上演もそのひとつで、パリ・オペラ座バレエの表現を広げていく試みの環と言えます。

から現代作品まで幅広いレパートリーを誇り、常に世界のバレエ界をリードし続けているのがパリ・オペラ座バレエ団です。

また、新作にも積極的に取り組む、外部振付家への委嘱作品も積極的に取り組んでいます。今回の「輝夜姫 Kaguyahime」上演もそのひとつで、パリ・オペラ座バレエの表現を広げていく試みの環と言えます。

DATA

輝夜姫 Kaguyahime パリ・オペラ座公演 2013

作曲／石井眞木
 指揮／ミカエル・デ・ロー
 振付／イリ・キリアン
 出演／パリ・オペラ座バレエ団、西洋打楽器アンサンブル、伶楽舎(雅楽)
 鼓童(齊藤栄一、船橋裕一郎、小田洋介、坂本雅幸、内田依利、小見麻梨子、草洋介、蓑輪真弥)

公演：2013年2月1日(金)～17日(日) 計14回公演
 会場：パリ国立オペラ ガルニエ宮 (Opéra national de Paris Palais Garnier)
 チケット発売：オペラ座サイトにて11月12日(月)より
 ※ワールドチケットびあでも手配可。http://www.wt-pia.jp/
 パリ・オペラ座サイト http://www.operadeparis.fr/
 ※2010年の舞台映像がご覧になれます。
 http://www.operadeparis.fr/saison_2012_2013/
 Ballets/kaguyahime-kylian/decouvrir/presentation/video

「輝夜姫」

作曲当初から日本の民族的打楽器群、西洋的打楽器群、バレエ、パントマイム、語りなどによる総合的な舞台作品として構想されたもので、石井眞木作品の中でも特別な構成によるもの。物語は「竹取物語」(川端康成編纂)と語り部伝承の「かぐや姫」をもとに石井眞木氏自身によってバレエ台本が書かれた。この作品には石井眞木作曲の鼓童のレパートリーがふんだんに取り入れられている。

心の声の導くままに～うたと鼓童と私のこと

藤本容子

—— 屋台囃子を叩く座員の

太鼓を射抜くような眼差しに魅せられた ——

24歳で前身の「佐渡の國鬼太鼓座」に飛び込んでから、太鼓中心の集団の中で、うたを通じて人々と絆を結び、鼓童の願いを体現してきた藤本容子。

自身の選択として、来年から京都・和知を拠点に、活動を始めます。

その新境地となる新たな年を前に、鼓童の一員として、そして、ひとりの人間として、後輩達に語りかけてくれました。

「うた」に込めた思い、佐渡への憧れ。

そして、未来に願う鼓童の姿 ——

構成●洲崎純子、写真●田中文太郎、岡本隆史、西田太郎



EC2012 ワークショップ「ヴォイスサークル」

藤本容子（ふじもと・ようこ）東京都出身。1976年、佐渡の國鬼太鼓座に入座。箏、唄、踊りで舞台に立つ。1980年、体調を崩し舞台を降りる。1981年の鼓童スタートと同時に機関誌編集の専任となり10年間担当する。その間も、時機に応じて公演の企画制作やツアーマネージャー、鼓童の会の仕事などを務める。1989年より舞台メンバーとスタッフを兼務。1991年、機関誌の仕事に関わりつつ、舞台活動に完全復帰。ソロコンサートや「花結」「二人行脚」など小編成活動を主とし、声のワークショップ「ヴォイスサークル」を展開。2011年は一年を通しての30周年記念ツアーに参加。2012年、鼓童名誉団員に。

「うた」との歩み

私の一番最初の記憶は、こたつの上に乗って、歌いながら踊っているんです。母と祖母が大喜びで拍手をしてくれて、それが嬉しくて、毎日のように繰り返していました。誰でもそうだったと思うんですけど、私も、歌うことは生まれつき好きだったんです。

鬼太鼓座の時は、大きな声でがんがん歌っていました。けれども、体調を崩し舞台を降りることになって、そして十年。その空白は、舞台人として取り戻せないものと思っていました。手術をして、思うように声が出なくなっていました。たし、当時は「機関誌編集、それが私の仕事」でした。そんな私が歌うことに戻っていったのは、

ひとりで言うのと、呼ばれて引き寄せられていったということでしょうか。

最初の二歩は一九八九年、幹文（山口）さんの初めてのソロコンサートで誘ってもらって。震える思いで歌ったら、一人のお客様がとても喜んでくださったんです。その方の話に励まされて「もしかしら、また歌えるかも？」と思うようになりました。そうしたら、思いがけず千絵子（小島）さんと光枝（金城）さんが始めようとしていた「花結」の活動に参加することになったり、吉利との「二人行脚」の活動が始まったりして、あれよあれよ…という具合に歌うことに戻って行けたんです。その流れは、自分で掴んだというより、大事な人達からいただいたものだったんですね。

また、舞台に戻る一つの動機となったと思えるのが、研修生の唄の指導です。研修制度が始まった八五年から、ずっと担ってきた中で、未来の舞台に立つ人達に教える自分が舞台に立たないで何が伝えられるか、と思うようになって。

不思議なこともありました。体調も悪くて精神的にひどく落ち込んでいたある日、大好きなアイヌ歌謡の『オロピンネ』を、砂浜でひとり口ずさんでいると、「私には母がいて、その母にも母がいて…ずっつと繋がりを遡ってゆくと、私の生命は宇宙が生まれるその瞬間まで繋がっているんだ」ということに突然気がついて。私という存在は小さいけれど、私を支えている存在はこんなに厚い何層もの生命の重なりになっていて、私はその上に生きていくんだ。そう思うたら感謝の気持ちがあつと溢れてきて、すぐく力が湧いてきて、ああ、私はこんなに支えられている。だから、生きなきゃいけないし、私は歌える、生きていけるんだって思えたんです。

それでもね、実際にまた舞台に立つということとは嬉しいのだけれども、怖くて怖くて、申し



日系アメリカ人アーティスト、ノブコ・ミヤモト氏とPJヒラバヤシ氏とともに「日本人の血の流れ」をテーマに、生命の別離や悲苦、不理解、そして再結と癒しに至る道行きを表現した、トライアングルプロジェクト。



訳ないような気持ちでした。親友から「舞台を離れていた時に体験したひとつひとつが、あなたの唄を素晴らしいものにする力になるんだよ」と言ってもらったことにならなければならないには、とても時間がかかりました。

ワークシヨップの「ヴォイスサークル」を始めたのは一九九七年でした。

機関誌を編集する中で、日頃自分が扱っている「言葉」というものに対して疑問が湧いて来たのが、そのきっかけでした。声の神秘というか、言葉の前にある「声」の存在に改めて気づくことができたのも、様々なネイティブの方達と出会い、私達の記憶の奥に眠っている懐かしくたくましい声の力に触れたいと思うようになったのも、その戸惑いを経験したからと思います。言葉は嘘もつけるけど、声は嘘をつけない。そのピュアで正直な人としての波動を、全ての人間が持っている。すごいことです！ 声を響き合わせることは、励まし、癒し、浄化の時空を生みます。それがワークシヨップの内なるテーマとなりました。

「歌うことでの転機は、二〇〇二年から六年がかりで取り組んだ「トライアングルプロジェクト」という活動で、英語で歌い、演じ、また叩いて踊つてと、初めて尽くしの挑戦をしたこと。そしてソロアルバム「morisa komorisa」を作ったことが大きかったです。一緒に仕事をした日系アメリカの人々によつて世界に目を開かされ、また彼らの懐の広さ暖かさに、心から安心して仕事ができ、自信を育てることができました。

ソロアルバムのテーマだった「子守唄」は、もともとプロが歌うものではなく、普通のお母さんやおばあちゃんが歌つて、子供を寝かしつけたもの。どうしても上手下手に囚われてしまう自分に、そこに愛情があるかどうか、歌う必然があるか

どうかという本質を、思い出させてもらいました。

私のうたの活動は、鼓童全体から見ればとてもやさやかなものです。けれども、これまでいただいた「うた」そして「声」の出会いには、小さくても深く、私の「歌う必然」を育み続けてくれました。大きなツアーではなかなかできない挑戦や交流を様々してこられたことに、感謝すると共に、鼓童の一員として生きている中で、外の世界と鼓童を繋ぐ、一つの役割をなしていたかなと、今、思います。

この海外アーティストとの総合芸術の舞台やソロCD制作、また、舞台を降りてスタッフとなった人間が舞台に戻るなど、振り返つてみると、自分だけでなく鼓童にとつても初めての経験を折に触れてしてきたようです。

「はじめの二歩」。それは、次の二歩を踏み出しやすくする二歩。そう思うと、大変だった記憶は消えて、じんわりうれしさが満ちてきます。それが私達「うぶすな」世代だと思えます。

佐渡に憧れて

機関誌編集を担当していた頃、佐渡のあちこちを訪ねて、素晴らしい人や場所や物事にたくさん会うことができました。ますます佐渡にぞつこん！ となつてしまった私でしたが、そんな出会いや、佐渡の伝説や暮らしなどを元に、これまでうたをいくつか作ってきました。

三〇曲くらいでしょうか。うたとお話のコンサートを島内ですると、「むしろより佐渡のことをよく知つとる」と感心していただいたりしますが、それは無知ゆえの強い憧れ、そして外から来た者の怖いもの知らずのなせることかもしれせん。ただ、佐渡が好きなのです。

昨年、三校が合併して来年新設となる畑野小学校の校歌作成のお話が鼓童に舞い込みました。奇しくも畑野は、鬼太鼓座が活動を始めた場所。当時は、長髪に赤いトレパンと上半身裸で走る集団を、「赤軍派」ではないかと思つたといいます。佐渡の人々にしてみれば謎めいた怪しげな集団だったでしょう。それが「新しい校歌は鼓童さんへ」と依頼をいただく今となつた幸せ。本当にびつくりして、涙が出るほど嬉しく、私自身、作詞作曲を担当させていただいたことは、言葉に尽くせないほど光栄なことでした。いつも島崎信先生（鼓童文化財団理事長）から言われているように、まさしく「継統は力なり」。この四〇年の歳月の末に、鼓童が佐渡を愛する気持ちと感謝の気持ちを、うたによつて形にさせていただけただけことは、鼓童の歴史に残る至福の出来事であると思います。

佐渡が今も残す日本の自然と暮らしの姿、島に暮らす皆さんの人情から、私達はこれまでどれだけの恩恵をいただいたことでしょうか。

鬼太鼓座ができた頃は人口十万人だった佐渡ですが、今は六万人台になっています。その事実だけで良い悪いは言えませんが、やっぱり人通りの少なくなった町並みを通ると、何か胸が痛みます。「どうしたらよいのだろう。私達に出来ることはないだろうか」と思うこの頃です。ひとつには、佐渡の皆さんに佐渡の良さをもうひとつと実感していただき、元氣になつていただけるようなことをしてゆければと思います。

ECは、第一回から佐渡の皆さんと一緒に創り続けて十五年になりましたが、とても大きなことだと思えます。関わりはきつと、どんどん多様になつてゆくことでしょう。これからも、一緒に何かを生み出して行く創造の現場をさまざまな方達と掘りながら、佐渡に面白いことが



佐渡特別公演より「小木追分」

起こつていったらと思います。佐渡の未来に鼓童がどう関わって行くことができるか、それは鼓童の活動理念につながる使命でもあると思っています。

私達の芯となるもの

今は、ただ「存続し続ける」ことさえ難しい、全世界的な試練の時だと言われています。鼓童も大きな転換の時にありますが、集団のこれまでを振り返ってみると、鬼太鼓座から鼓童になった時と、ハンチョウ（故・河内敏夫／鼓童初代代表）が亡くなった時が、最大の危機であり試練でした。厳しい時代を、皆で乗り越えてくることのできた私達は、試練に強いグループであると思つています。そして、危機の時にこそ本領を発揮して行けるグループだと信じています。

集団が継続するためには、「変化を恐れず新しいことに挑戦していくこと」「感謝の気持ちを持って、自分たちのできることで、社会へ還元してゆくこと」。この二つがなければならぬと言います。

それでは、なぜ、鼓童を継続させたいのか。と思うと、まず、皆で太鼓を叩いたり唄ったり踊ったりしていることが幸せということがあり、そこには観てくれる人がいて、その人達の喜びが、より自分たちの幸せを増幅させてくれるということがあり、また、人との関わりの中で、様々な支援をいただいでこそある、この幸せだけということ。だとしたら、これを自分達だけのものにせず、どう働かせることができるだろうかという、鼓童ならではの役割どころを、もう一度、確認したいのです。それは、鼓童の活動理

念に繋がると思っています。

「私達は、太鼓とともに世界をめぐる、多様な文化や生き方が響き合う『ひとつの地球』を目指します」

この、太鼓と共に生きながら、平和な地球、調和された世界の創造に向けて、少しでも役に立ちたいという鼓童の願いは、同時に、一番の足下である鼓童のグループ自身の調和を目指すことであり、それぞれの家族のことであり、佐渡のことです。

この願いを、私達の心の何処かにいつも置いておくことは、舞台を務めていても、マネージャーをしていても、広報も、販売も、料理作りも、自分の仕事に対する目的意識が深くなり、また違う立場の仕事に対しての敬意を深め、どんなに離れた働きをしていても、ぶれることのない共感を持って、励まし高め合つてゆくことに導かれて行くこと、私には思えるのです。そして、私達がどんな存在であるかということがより明瞭になり、世の中のどういう役割を担えるのかということが、日常の活動になって還つてくるのではないかと思ふのです。

アメリカのあるジャーナリストが、こんなことを言っていると聞きました。日本人は、困難に出会ったとき、皆で一緒に苦しむことができる。これだけしか物が無いという時、自ずと分け合うのが日本人。「誰がもらうか」という力関係が生まれたり、「あるところから持つてくればよい」という発想になるのがアメリカ人だ。その人は、そう評していたそうです。鼓童も、家族を含めて百人近い人間の集まりの、たくさんさんの触覚をもっている生命体として、日本人の特質を発揮しながら、出会う人達と一緒に課題を乗り越えていくことができるのだと思ふのです。そして、ひとりひとりの担う役割の中に、たくさ

んのヒントが隠れているのだと思ふのです。

これからの鼓童へ

先ほど、継続のための二つの条件と言いましたが「変化を恐れず新しいことに挑戦」というのは、まさに芸術監督に坂東玉三郎さんを迎えて、未来に向かおうとしている、現在の太鼓芸能集団「鼓童」の活動が象徴していると思ふます。必ずそこに何かを見つけ、血肉としてゆく鼓童と思つています。

そのためにも、これからの鼓童の舞台が、本当に、どれだけ太鼓の音が素晴らしく、どれだけ鍛錬されていて、他には真似出来ない豊かな表現に向かうことが出来るか。その境地を、柔軟に追求し続ける人々の集団であつて欲しいと思ふます。

今年から始まった佐渡特別公演をはじめ、これから鼓童文化財団の役割は「社会への還元」ということがより明確になってゆくでしょう。それには、鼓童メンバーやスタッフ、鼓童グループのひとりひとりの中にどんな夢や願いがあるかが、これまで以上に具体的ななきつかけになっていくと思ふます。いろんな可能性の広がりを持つていくと、楽しく活動ですし、これから私に関わることも、そうした分野により近いのではないかとと思つています。

鼓童村はというと、ものづくりにしても村の環境整備にしても、今はある限られた人が中心の状況ですけれど、あと十年も経ったら相当な人数が関わっているかもしれない。キャリアを重ねた人の中には、舞台道具や衣装、楽器作り、生活用具作り、健康や食生活管理、農業ほか、鼓童を支える背景を広げる可能性と視野を持つて、自分にできることを探していく人が多



2009年 鼓童「うぶすな」公演より「オロロピンネ」

く出るでしょう。

故・本間雅彦先生(鬼太鼓座立ち上げの原点となった郷土史・民俗研究者、元佐渡農業高校教諭)も、「太鼓だけでなく、もう一つでも一つでも好きなことを持つていなさい」と、よくおっしゃっていました。多くの情報を共有して、選択肢やチャンスがいろいろに生じている現場というのが、私達ならではの鼓童村なのではないかと思っています。経済的にもうまく成り立つようなシステムができるよう、心から願っています。

私は、鼓童の活動をサポートしながら、お互いのサポートもし合う、鼓老になった仲間達の方や仕組み作りに関わりたいいな。

そして、これからの私

私は来年から、京都の和知に暮らしている吉利の両親のところを拠点にします。和知に帰

るといふ決断は悩み抜いてしたわけではなく、ある瞬間に、私の中にぽんと入ってきた一言があったからです。「あなたが両親を心配する気持ちがあるなら、あなたが和知に帰ればいい」と、心の中で声が響いたんです。その瞬間「あ、そういう考え方があったのか」と泣けて泣けて。この大好きな佐渡から、鼓童から離れることなんてできないと、ずーっと思っていたのに、愛する気持ちはそのままに、こだわりだけ涙と緒に流れちゃった。不思議なことです。そういうえば、鬼太鼓座に入るのも、結婚も、突然降りて来た直感だったわけ。これからは、大好きな義父母と二緒の時間を大切に、和知の暮しに親しんでいきながら、鼓童の名誉団員として活動を続けます。一度は辞める覚悟をした「うた」ですが、両親をはじめ多くの皆さんから続けなさいと言っていただけ、感謝でいっぱいです。

「これからは研修生の指導や「花結」の活動、ワークショップやコンサートなど、可能な限り鼓童との仕事を続けてゆくつもりです。実際は、吉利が主に佐渡に、私が主に和知にという形になるのですが、二人二緒の仕事や時間も、大切にしたいです。

関西の方々のお仕事というのはこれまでほとんどなかったもので、和知(京都)に移ったら、何か二緒させてもらえたら嬉しいですし、とても楽しみです。表現する人間というのは、必要とされたらどこへでも飛んで行きたいのが習性だと思っています。その習性を、抑える必要はないんだということ、この半年でたくさんの方から教えていただきました。できうる限りそう生きてゆきたいと願っています。

来年からの未体験ゾーンに向かう気持ちは、一ヶ月先が分からないという鬼太鼓座時代のスリリングな感じにどこか似ていて、こんなふう

ドキドキワクワクしている自分があるのは久しぶりです。本当に、人生って不思議ですね。

お世話になった皆様には、ご心配をおかけしているでしょうか。皆様の視界から完全に消えてしまうことなく、これからも二緒出来るチャンスを作って行きたいと願っております。どうぞ、鼓童ともども、今後とも変わらぬご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。まだまだ冒険できます。頑張ります!

(十月十七日、鼓童村で話を聞きました)

※来年以降も、藤本容子へのお便りやお問い合わせは、これまで同様、鼓童事務所宛にご連絡ください。

「ヴォイスサークル・スペシャル」のお知らせ

これまでご支援いただいた方々への感謝とともに、これからの新たな活動への期待を込めて、藤本容子がライフワークとして取り組んでいる声のワークショップ、「ヴォイスサークル」スペシャル版を開催いたします。

日時：12月22(土) 10:00～12:00

場所：東京・文京ソニックホール 多目的ホール(地下1階)

定員：30名様参加費：一般3,500円(鼓童の会会員3,000円)

お申込み方法：電話かEメールでお申込みください。お名前、ご住所、電話番号、参加人数を伺います。受付後に参加案内と参加費送金用の郵便振替用紙をお届けいたします。

Tel. 0259-81-4100(鼓童文化財団/月～金 9:30～17:00)

Eメール：zaidan@kodo.or.jp(「ヴォイスサークル・スペシャル参加申込み」としてください。)担当：鼓童文化財団 山口康子

田んぼまるごといただきます!

2012年 研修所、実りの秋



今年の10月の研修所は、2年生が佐渡特別公演の為に10日ほど研修所を離れて小木に合宿。

例年、1、2年で力を合わせてする稲刈りや柿発送などの作業を、留守番の1年生が一手に引き受けることになりました。

そんな矢先、体調を立て直す為に同期の一人が一時帰省することに…。

自然や、人との出会いや、共同生活に教えられながら、稲と同じく成長する研修生。

彼らの日誌に現れたこの季節の心模様を紹介します。

十月十日

今日から二年生と、リキがない生活が始まりました。リキの二時帰宅の話聞いた時は驚いたけど、自分の身体をしっかりと分かって、また元気に戻ってきてくれることを祈ってます。そんなことでリキが抜けて二年の男七人、寂しい感じは募り、作業量は増える。

今日の機関誌発送も長く感じましたし、茶道のお点前も、食事当番も回ってくる順番が早い。明日からの稲刈りと柿発送もなあ…。しかし、こんなこと言い出したらキリがないのでとりあえず頑張ります。でも、一人いなくなるとこんなに大変で、忙しいとは思いませんでした。しかも、つまらない!

みんな仲間であり、みんなライバル。難しい環境ですが、仲間の存在の大きさに初めて気づいたように思います。おい、早く戻ってこいよお!!

十月十日

今日は丸一日稲刈りで、腰が痛くなり、正直しんどかったです。一度集中すると、かなりのスピードで作業ができるんですが、まだかなり自分の中で流れにムラがあり、作業の効率がなかなか上がりません。ですが「コンバイン」という称号を手にするために、明日もひたすら刈り続けます。

刈っている時に、フツと空を見たり、トンビを見てポーっとしたり、稲を刈る音を聞いたり、泥の音を聴いたり…。作業以外の部分から楽しさを見つけることが得意になりました。今日最後の方で仲良く並んでいる稲があったので、切らないで一本だけ残しておきました。他の稲と同じだとは思いますが、何故か別物に見えてしょうがなかった。でも、僕達の大切なお米なので、明日丁寧に取り取ろうと思います。

リキも今頃、自分の身体を知ろうと必死だと思うので、僕達も必死に稲を刈ります。リキがいなぶん大変ですが、あいつが元気に戻ってきてくれればそれで充分です。リキのことを考えながら今日も大太鼓を鳴らしませう! 千葉まで届くかな…。

十月十四日

今日は稲刈り明けの五日ぶりの稽古でした。五日間、夜の時間しか太鼓を打てていなかったもので、下の田んぼが一段落つきそうな昨日から待ち遠しくて仕方なかったです。久しぶりの稽古で、改めて「太鼓って楽しいな」と思いました。様々な経験をさせてもらえるこの研修所。その中で「太鼓を叩ける」という初心を忘れずに、これからも取り組んでいこうと思います。

フリートーク

Believe in my intuition

草 洋介

直感って信用できるのだろうか。

何かを決める時や、美しい、素晴らしいと感じる時、説明の出来ない感覚があるように感じています。稽古をしている、生活をしている、その感覚に従うほど自分が自然体でいられる気がします。

中学生の終わり頃から大学までずっと美術の世界にいた時には、美しいものには必ず理由があると思っていました。

描写力や色使い、構図など、どこか腑に落ちる所を探して、こじつけになっていることにも気付かず頭で考えるばかりになっていました。

鼓童に入り数年が経ち、少しずつ気付いたことがあります。それは言葉や頭では説明のつかない「直感」で感じるべきものがあるということです。

「間」の取り方や「馴染む」感覚。

それらは常に変化するように感じますが、確実にあるものだと思うようになりました。

そして全体の中で自分はどんな音が自然なのかを直感で探るようになり、そこで自ずと見えてきた足りないものを稽古することで目的意識ははっきりしました。

これで少し前に進める気がしています。

今、街中などでふと美術作品を見た時に

「何かいいね」と自然に感じて、

言葉にできることが嬉しくもあります。

ただあまり過信はせずに、程よい気持ちを大切に…

これからも頑張ります!



【絵について】

今回「絵を描こう!」という自分の直感に従って、久しぶりに2枚のデッサンをしました。

一日1時間と決めて描き始めましたが、結局締め切り間近となった今日は5時間ほどかけてようやく出来上がりました。

完成間近の何とも言えない緊張感と、鉛筆タコの感触が懐かしかったです…。



草 洋介(くさ・ようすけ) 1983年5月13日生まれ 兵庫県神戸市出身

2007年研修所入所、準メンバーを経て、2010年よりメンバー。太鼓、笛、踊りなどを担当。草洋介を略して「草介(くさすけ)」と呼ばれている。草、は珍しい名字ですがもともとは富山の出身とのこと。

京都造形芸術大学に在学中に太鼓や民俗芸能に出会う。鬼剣舞も、入座以前より地元の皆さんから学ぶ機会をいただいていた。何ぶん頭で考えるので、華々しくはないけれども几帳面にこつこつ積み重ねるタイプ。スポーツマンで、足の速さは鼓童内でも1、2を争う。いじられるキャラクターも後輩に譲り、舞台も次のステップに足をかけ、更なる脱皮の期待されるところである。

「似てないの載せなくても…」と遠慮がちに出してきた自画像。確かに似ていないけど力作なので載せちゃいます。ポイントとしては、こんなに目が大きくない、ということで。「寅さん(渥美清)に似てるよね」と言われる切れ長の涼しい目にはファンも多いのですが…。

KODŌ 公演情報

託…託児あり 先…鼓童の会会員先行予約あり 指…全席指定 自…全席自由

(10月30日現在)

レナード衛藤フル稼働ライブ 船橋裕一郎、小田洋介出演

11/30(金),12/1(土)

東京都渋谷区 Shibuya BOXX

11/30 夜1公演

ブレンドラムス大作戦「蒼い月に吠える」
開場 18:30 開演 19:00

12/1 1日2公演

ブレンドラムス大作戦「祝祭」
開場 15:00 開演 15:30
開場 18:30 開演 19:00

出演:レナード衛藤、鼓童(船橋裕一郎、小田洋介)、こと(笛)、浦上雄次(タップ)、RON×II(タップ)、當間里美(タップ)、洞至(タップ)、鬼怒無月(ギター)、岸利至(プログラミング)ほか
※出演者ならびに内容は3公演で異なる予定です。

前5,000円 当5,500円(1ドリンク付、税込) 自 整理番号順に入場
チケット発売中

チケット取扱い:e+(イープラス)

公演詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

問)レナード衛藤オフィシャルサイト

http://leoeto.com

ワン・アース・ツアー～伝説 12月

12/5(水) 新潟県佐渡市

アミューズメント佐渡

18:30 開場 19:00 開演

SS席(1階1~13列) 4,500円

S席(1階14~29列) 4,000円

A席(2階1~3列) 3,000円

B席(2階4~7列) 2,500円

学生券(小、中、高校生) 2,000円

指



未就学児の入場は不可 託 定員制、
有料、要予約(鼓童 Tel. 0259-86-
3630)

チケット発売中

問) 鼓童チケットサービス

Tel. 0259-86-2330

(月~金/9:30~17:00)

12/8(土),9(日)

新潟県新潟市

新潟県民会館 大ホール

「新潟」駅万代口よりバスで約20分

8日(土) 18:00 開場 18:30 開演

9日(日) 13:30 開場 14:00 開演

S席 6,000円(1階全席、2階7列まで)

A席 5,000円(2階8列以降) 指

未就学児の入場は不可 託 要予約、

有料(TeNY チケット専用ダイヤルへ

11/22(木)までに申込)

チケット発売中

問) TeNY チケット専用ダイヤル

Tel. 025-281-8000

12/11(火) 愛知県名古屋市

愛知県芸術劇場 大ホール

名鉄瀬戸線「栄町」、地下鉄東山線・

名城線「栄」4番出口徒歩3分

18:00 開場 18:30 開演

S席 6,000円(1,2階全席、3階正面)

A席 4,000円(3階両サイド、4階)

指 未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) 中日劇場予約センター

Tel. 052-320-1888

12/13(木) 広島県広島市

広島文化学園HBGホール(広島市文

化交流会館) ※名称変更になりました。

広島バス24番吉島行(吉島病院)8

つ目「加古町」下車/広島電鉄「市

役所前」下車、徒歩12分

18:00 開場 18:30 開演

S席 5,500円(1階全席、2階4列まで)

A席 5,000円(2階5列以降) 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) 広島テレビイベントインフォメーションセ

ンター Tel. 082-249-1218

12/15(土) 兵庫県尼崎市

あましんアルカイックホール

阪神電車:梅田から7分、大阪難波から

20分、三宮から22分、「阪神尼崎」

駅下車、立体遊歩道で徒歩約5分(国

道2号線玉江橋交差点すぐ)

17:00 開場 17:30 開演

前S席 6,000円(1階)

A席 5,500円(2階)

学生 4,000円

当S席 6,500円 A席 6,000円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) ページ・ワン Tel. 06-6362-8122

12/18(火) 神奈川県横浜市

神奈川県民ホール 大ホール

みなとみらい線「日本大通」駅より徒歩

約6分。JR根岸線・市営地下鉄「関

内」駅より徒歩約15分

18:00 開場 18:30 開演

S席 6,000円(1,2階)

A席 4,000円(3階) 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) tvk チケットカウンター

Tel. 0570-00-3117

12/22(土)-24(月・振休)

東京都文京区

文京シビックホール 大ホール

東京メトロ丸の内線・南北線「後楽園」

駅、都営地下鉄三田線・大江戸線「春

日」駅より直結

14:30 開場 15:00 開演

S席 7,000円(1階全席、2階13列まで)

A席 5,000円(2階14列以降) 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

12月22日(土)は残席僅かです。

問) 鼓童チケットサービス

Tel. 0259-86-2330

tvk チケットカウンター

Tel. 0570-00-3117

2013年

ワン・アース・ツアー～伝説 2~3月 アメリカ

鼓童サイトの公演スケジュールのページから各公演会場の情報サイトにリンクしています。どうぞご利用ください。

2/1(金) ネバダ州ラスヴェガス

The Smith Center for the

Performing Arts

19:00 開場 19:30 開演

11/16(金) チケット発売

(10月30日現在)

2/3(日) カリフォルニア州バークレー

UC Berkeley - Zellerbach Hall
18:30 開場 19:30 開演
チケット発売中

2/5(火)

カリフォルニア州ロスアンゼルス
Walt Disney Concert Hall
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

2/7(木)

カリフォルニア州デイヴィス
UC Davis - Mondavi Center -
Jackson Hall
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

2/9(土),10(日)

ワシントン州シアトル
University of Washington - Meany
Hall
9日 19:00 開場 20:00 開演
10日 13:00 開場 14:00 開演
チケット発売中

2/13(水) イリノイ州シカゴ

Symphony Center Orchestra Hall
18:45 開場 19:30 開演
チケット発売中

2/15(金) ミシガン州アナーバー

University of Michigan - Hill
Auditorium
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

2/17(日) ミネソタ州ミネアポリス

The Auditorium at the Minneapolis
Convention Center
18:30 開場 19:00 開演
チケット発売中

2/19(火) アイオワ州デモインズ

Civic Center of Greater Des Moines
19:30 開演
チケット発売中

2/23(土)

サウスカロライナ州グリーンヴィル
The Peace Center
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

2/25(月)

ノースカロライナ州チャペルヒル
Memorial Hall
19:00 開場 19:30 開演
チケット発売中

2/28(木)

フロリダ州ゲインズヴィル
University of Florida - Phillips
Center
19:00 開場 19:30 開演
チケット発売中

3/2(土) フロリダ州クリアウォーター

Ruth Eckerd Hall - The Richard
B. Baumgardner Center for the
Performing Arts
18:00 開場 19:00 開演
チケット発売中

3/9(土) フロリダ州マイアミ

Knight Concert Hall at the Adrienne
Arsht Center for the Performing
Arts of Miami-Dade County
19:30 開場 20:30 開演
チケット発売中

3/11(月) フロリダ州ネイブルズ

Philharmonic Center for the Arts
20:00 開演
チケット発売中

3/14(木) オハイオ州コロンバス

Palace Theatre
20:00 開演
チケット発売中

3/16(土) ワシントン DC

DAR Constitution Hall
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

3/18(月)

ウェストバージニア州モーガンタウン
West Virginia University Creative
Arts Center
18:45 開場 19:30 開演
チケット発売中

3/20(水)

ペンシルバニア州イーストン
Lafayette College - Williams Center
for the Arts
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

3/22(金)

ニュージャージー州プリンストン
McCarter Theatre
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

3/24(日)

ニュージャージー州ニューアーク
Prudential Hall - New Jersey
Performing Arts Center
15:30 開場 16:00 開演
チケット発売中

3/25(月)

ペンシルバニア州フィラデルフィア
Kimmel Center for the Performing
Arts - Verizon Hall
19:30 開演
チケット発売中

3/27(水)

コネチカット州ストアーズ
Jorgensen Center for the Performing
Arts - University of Connecticut
19:30 開演
チケット発売中

3/29(金)

ニューヨーク州スケネクタディ
Proctor's Theatre
19:30 開場 20:00 開演
チケット発売中

坂東玉三郎◇鼓童
「アマテラス」

7/4(木)-28(日)

東京都港区
赤坂 ACT シアター
※ 2013 年の新年号で先行予約のご案内をする予定です。

9/5(木)-28(土)

福岡県福岡市
博多座

10/5(土)-27(日)

京都府京都市
南座

鼓童グッズ

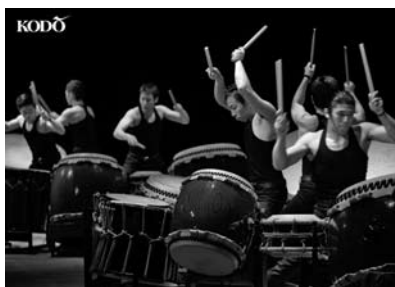
鼓童カレンダー2013

「鼓童カレンダー 2013年版」の発売開始です。
オンラインストアで先行発売中。12月ツアー会場でも販売いたします。

下の舞台写真6点のほか、舞台メンバー全員のポートレートも掲載しています。



カレンダー表紙



鼓童カレンダー

モノクロ16ページ
価格：1,200円
鼓童の会会員価格：1,000円
11月10日より発売

価格はすべて税込みです
お求めは便利な「鼓童オンラインストア」
で <http://kodo.or.jp/store/>

鼓童グッズのお問い合わせはこちらまで
Tel. 0259-86-3630 (販売部)

会員プレゼント 鼓童&タイコース ポスター

申込方法：お名前、会員番号、ご住所、電話番号、鼓童へのメッセージをお書き添えの上、Eメール、ファクス、お葉書のいずれかでお申し込みください。11月20日（火）締切。発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

サイズ：42.0cm × 29.7cm

宛先：鼓童&タイコースポスタープレゼント係
郵送 〒952-0611
新潟県佐渡市小木金田新田148-1
Fax. 0259-86-3631

Email: friends@kodo.or.jp メールタイトルを「ポスタープレゼント申込み」としてください。



会員プレゼント
鼓童&タイコースのサイン入りポスター
オーストラリアを代表する和太鼓アンサンブル「タイコズ」と共演したオーストラリア公演のポスターです。鼓童の会会員5名様に抽選でプレゼントします。オーストラリアツアーに参加した鼓童メンバーとタイコースのメンバーがサインしました。ご応募お待ちしております。

山口幹文

一管風月コンサート

山口幹文の「一管風月」コンサートが12月に新潟市と燕市で開かれます。佐渡在住のチェンバロ奏者佐藤世子氏との初めての共演です。佐藤氏はバロックフルート奏者との共演を機に2004年にチェンバロを始めました。ヨーロッパの歴史深いチェンバロの音と日本の横笛の共演をお楽しみください。

新潟市ではコンサートと同じ日に篠笛ワークショップも開催します。

山口幹文 一管風月コンサート

出演：山口幹文(真笛)、佐藤世子(チェンバロ)

新潟市 日時：12月15日(土) 第一回13:00開場、13:30開演
第二回16:00開場、16:30開演

会場：砂丘館 蔵1階(新潟市中央区西大畑町5218-1)
料金：3,500円 定員各回35名

【篠笛ワークショップ】

日時：12月15日(土) 10:00～11:30 (9:30開場)

会場：砂丘館 蔵2階

料金：5,000円(講師料、篠笛レンタル料含む) 定員15名

コンサート、ワークショップ申込・問：砂丘館

Tel.&Fax. 025-222-2676、Email: sakyukan@bz03.plala.or.jp

※ファクスかEmailで申し込みされる場合は、電話番号と申込人数を必ずお書きください。

問：佐渡太鼓体験交流館(たたこう館) Tel. 0259-86-2320、

Fax. 0259-86-2385、Email: info@sadotaiken.jp

燕市 日時：12月16日(日) 15:00開場、15:30開演

会場：大山治郎コレクション美術館

(燕市井土巻2丁目 ビストロ&Café六朝館隣)

料金：3,500円

チケット申込・問：ビストロ&Café六朝館 Tel. 0256-66-3388

佐渡太鼓体験交流館(たたこう館) Tel. 0259-86-2320、

Fax. 0259-86-2385、Email: info@sadotaiken.jp



震災復興祈念 おいらせ町和太鼓フェスティバル

2011年の東日本大震災による被害を受けた地域の一つである青森県おいらせ町。地元の和太鼓団体に加え、岩手や福島からの被災地からも出演し、和太鼓での交流を行います。この震災復興祈念のフェスティバルに鼓童も出演いたします。

震災復興祈念 おいらせ町和太鼓フェスティバル

会場：青森県上北郡おいらせ町 町民交流センター (体育館)

日時：12月9日(日) 12:00開場、12:30開演

出演：岩手県陸前高田市 水上太鼓「水上共鳴会」、
福島県川俣町 山木屋太鼓/おいらせ町 胡蝶蘭舞、
おいらせ町 王将太鼓、

鼓童(山口幹文、船橋裕一郎、小田洋介、内田依利、蓑輪真弥)

入場料金：前売1,000円、当日1,300円(大人・子ども同一金額)

全席自由 チケット発売中

※おいらせ町内の被災者の方々のご招待いたします。

チケット・お問い合わせ：みなくる館 Tel. 0178-52-3900

ローソンチケット(11月1日より) Lコード: 28551

主催：おいらせ町和太鼓フェスティバル実行委員会

- ・鼓童の演奏は60分程度を予定しています。
- ・都合により、プログラム及び出演者を変更することがございます。
- ・当日はスリッパ等の室内履きをご持参の上、暖かくしてお越しください。





「輝夜姫 Kaguyahime: The Moon Princess」 モントリオール公演千秋楽を終えて、出演者が舞台上で大集合。

(写真:メラニー・テイラー)

◆スタッフ募集◆

太鼓芸能集団「鼓童」の公演活動ならびに創造活動全般の運営を行っている株式会社北前船では、スタッフを募集します。私達と一緒に世界中に鼓童の存在を伝え、太鼓の音を響かせてゆく、その一翼を担ってみませんか。

下記の2つの職種に携わる人材を求めています。

- (1) 国内、海外公演の営業制作
 公演に関する企画制作、営業、ツアーマネージャー業務
- (2) 国内、海外広報宣伝
 公演に関する宣伝、鼓童の活動全般に関する広報

募集条件: 英語での実務経験のある方、普通免許取得者
 雇用形態: 試用期間を経た後、有期の契約社員
 勤務地: 佐渡を拠点に、公演ツアー同行などあり
 募集業務の詳細については、お問い合わせください。
 問: 総務経理本部 新井和子 Tel. 0259-86-3630

鼓童についての最新情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.kodo.or.jp>

鼓童事務所へのお問い合わせはこちらへ。
 Tel. 0259-86-3630 (代) / Fax. 0259-86-3631
 Email: heartbeat@kodo.or.jp

▼約二〇年前、九三年四月号の機関誌にある「鼓童村の夢と今」という特集記事は当時、容子さんが中心となって企画編集していました。それは私にとって、鼓童の原点を見つめるいわばバイブルのような、活動の指針となる印象深いものでした。機関誌には、折々にグループの来し方行く末を見つめる役割があると感じます。そんな視点を忘れずにいたいと思います。(す)

▼容子さんの和知行きの話に最初は驚きましたが、鼓童グループの新たな広がりを示すものとして、今ではむしろワクワクしています。思いを受け止めて、変化することを受け入れられる包容力が鼓童にあつて良かった。私も自分の中に生まれている様々な気持ちを大切にしつつ、鼓童と関わっていききたいと思います。(康)

▼容子さんの言葉には血が通っています。いつもいつもすごいなあと思っているのですが、今回はもう、血がにじみ出ているような感じ。容子さんの信念や切り開いてきた方々が通ってきた道のりに、自分のうすつべらさを反省する私です…。後に続く者の役割を皆で分かち合える貴重な文章、大事にしたいです。(美)

▼容子さんの話をお聞きし、鼓童村構想図が頭に浮かび、鼓童を通じて出会った皆さんの顔を思い出しました。経理部の細かな業務に没頭し、大切なものが見えなくなっていた自分に驚きました。容子さん、これからもよろしくお願ひします。(み)

▼日々筋トレに励む「こはむ」さん(ジャンガリアンハムスター)。お家や水ボトルなどを器用によじ登り、水槽上部にある格子で雲梯うんていをしています。いくら「ポドッ…」と落ち、鈍い音がしても、数秒フリーズしてはめげずに何度も喰らいついてる姿に、今日も癒されています。(恵)